

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2394700039		
法人名	株式会社 イズミ		
事業所名	グループホーム いわくらの泉 1階		
所在地	愛知県岩倉市八剣町井ノ下20番地		
自己評価作成日	平成27年8月15日	評価結果市町村受理日	平成27年10月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigvovsoCd=2394700039-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階
訪問調査日	平成27年9月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

いわくらの泉は今年で5年目の施設になります。「絆」をテーマに笑顔と心を大切に、毎月恒例のモーニング・喫茶レク、夕食レク、1泊の温泉旅行に力を入れております。地域との交流の場となるよう目指しており、入居者様を始め、御家族様、地域の皆様に愛されるよう日々努力しております。施設に自販機の設置することにより、地域の皆様の交流の場となるよう交流スペースや防犯対策も兼ねております。また、毎週ゴミ拾いに近隣の美化活動にも取り組んでいます。1日の流れは残存機能を活かしながらできることをよりながくを心掛け、体操、嚥下体操、散歩、踏台、掃除、買物、レクリエーションなど入居者様と楽しんでおります。病気になっても、社会との交流する機会を設け、その人が地域において生活できるように日々励んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周りの民家や田畑と溶け込んで佇むモダンな外観の事業所は、入居者や職員の動きがある中、節目の5年目を迎えた。入居者との繋がりを大切にし、地域に溶け込み地域に愛される事業所を目指して、職員とのコミュニケーションを重ねながら更なる努力をしている。「いわくらの泉」の理念を基に8項目の行動指針を管理者と職員で作上げ、日々のミーティングの中で唱和をしながら共通理解を深め、ケアの振り返りに繋げている。日々のケアを通しての事例検討会や看取りなどの勉強会を行い、職員の意識や力量の向上に努めている。また、包丁を使っの調理やフロアー交流の出張洗い場担当、独りだけの居場所の確保など職員の都合に合わせて、入居者の個性や立場、自尊心を大切にしつつ、出来る事を永くやっている様なケアに心がけている。入居者は、広い菜園で季節の野菜を育て収穫をして食材にし、食事を楽しんでいる。また、季節感や心地よい風を感じながら、ガーデンテラスでバーベキューをしたりおやつを頂いたり開放的な生活を楽しんでいる。広々としたリビングでは職員と会話をしたり、ソファーにもたれのんびりテレビを楽しみながら穏やかに過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関・及び各フロアーに提示をしました。日々の申し送り時に理念の読み合わせを行い、職員間で共有しています。	法人の共通理念を基に、職員の意見を取り入れた行動指針を作成し、玄関や各ユニットの出入り口に掲示している。毎日のミーティングに行動指針を唱和し職員が共通理解を深め、ケアに繋げるように心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	週1回 施設近隣のゴミ拾い活動を入居者様と行っています。買い物や近隣の人の挨拶などし、喫茶店や地域の行事に参加し、いきいき介護サポーターの受入もあります。	施設周辺道路の美化活動「アダプトプログラム」の継続や盆踊りなど町内会の行事に参加している。交流センターの利用や介護サポーターの受け入れなど地域の社会資源を活用している。散歩や買い物に出かけ、近隣の人と触れ合う機会を大切にしている。	5年目を迎え、地域の情報収集や協力体制の拡張など足踏み状態が感じられる。ボランティアの受け入れだけでなく、施設のPRや情報提供、開放事業など地域へ向けた新たなアプローチを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場において発信していません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	職員ミーティング時に報告させて頂き、改善点や御家族様等の意見を報告し、話し合いの上今後のサービスとして活かさせて頂いています。	入居者や家族、民生委員、区長、地域包括支援センターや事業所の職員が出席して年6回開催し、行動指針の内容を具体的に説明をする。行事や研修報告をしたり、提案事項などを協議し、カンファレンスで検討して運営に活かしている。詳細に記録された議事録を家族に郵送し、良好な反響を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所や包括支援センター及び近隣の施設との会議を定期的に図り、日頃から連携に勤めています。	推進会議の資料等の配布や更新手続きの折に、行政担当者に指導や助言を得ている。また、市主催の研修徘徊模擬訓練等に積極的に参加したり、機会あるごとにサービスの内容や取組を伝え、協力関係を深める様にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年も夜間のみ防犯対策として玄関は施錠させて頂いています。玄関の施錠以外に窓のストッパーを外すことを今年から実施致しました。	身体拘束についての研修や事例検討を行い意識を高め、プライバシーの確保、スピーチロックや束縛感のない環境やケアに努めている。玄関の施錠は防犯対策上夜間のみ行い、昼間は職員の見守りやチャイムで対応している。一人での外出を希望する入居者には、見守りながら支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今回は虐待に関する勉強会を行いました。日頃の問題点や改善点を見出し、今後の施設のあり方を話し合いました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度について一部の職員は把握しているものの、今後の勉強会として周知したいと考えております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居する前に必ず面接を行い、説明した上で契約をしております。また、随時承り、御理解と納得に努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時に意見をできる限り反映させて頂いております。その後、ご家族様には議事録として郵送もしています。	入居者からは日常の会話やケアの中で把握したり、運営推進会議や行事の後に感想を聞いたりしている。家族からは面会や行事の時に意見や要望を聞き、運営に反映させている。また月1回、入居者個人の状況や職員のコメント入りのホーム便り「絆」を個々に発行し、家族に安心と信頼感を届けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングを開き職員の意見を聞き、改善点があればその都度対応しています。	日常の業務の中や引継ぎ時、また、全体およびユニットミーティングで職員の提案や要望を聞き、話し合いをして運営に反映させている。職員との個人面談もあり、目標に対する自己評価や要望、意見、悩みなどを聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別面談を心がけ、意見を聞き整備に努めさせて頂いております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会を2ヶ月に1回のペースで取り組むように努力しております。また、社内の研修にも職員を同伴して頂いております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は同業者との交流を図りサービスの質の向上を図っております。職員同士ではまだまだ取り組みが必要。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	できる限り本人の要望や希望を聴き、ケアに反映できるように関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居する前に面接を行っております。何かあればその都度ご相談のり、対応させて頂いております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所後の様子を観察し、情報の共有を図りその時に必要なケアをするように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることや本人の居場所・役割を見出し、極力出来ることは行えるように暮らしの関係を構築に努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の関係を大事にし、極力ご家族様との交流する機会をお願いしております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会・使い慣れた調度品などを持ち込んで頂いている。行きなれた外出先やボランティアさんとの関係も継続して交流している。	入居者のこれまでの生活歴の聞き取りをして馴染みの人や場所を把握をし、ケアに活かせるように努めている。家族、知人の面会を大切に、馴染みの人との関係を大切にしている。食材を買いに行くスーパー、外食に出かける店は新しい馴染みとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関係できるように役割分担を図ったり、交流するレクなど支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後は必要に応じて交流するようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的カンファレンスを行い、個々のニーズに応えられるように話し合いをしています。	日常の関わりや会話、表情やケアの中から感じ取り、申し送りノートに記入し、職員間で共有してケアに繋げている。本人の癖や帰宅願望、独り散歩などの思いや要望などは、身体の安全が確保できる範囲で工夫をしながら、思いに応えられるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴を御本人様や御家族様等からお聞きし、可能な限り把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のニーズに合わせて、できることを可能な限り行い、日々の暮らしの中での変化や状態に合わせてながら提供しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを定期的開催し、ご家族様や現状の状態に合わせたケアプランを作成に努めています。	3か月に1度介護計画の見直しをしている。担当制でケアをしているがどの職員も入居者の状態を把握し、同じケアができるようにしている。包丁を使っての調理手や洗い場担当など、個々に応じた計画を作成し実施している。また、状態、状況の変化に応じて随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や申し送りなど活用して情報の共有に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できる限り対応ができるように対応し、ご家族様と相談しながら柔軟に対応できるように努力致します。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	全体的に満足できておらず、近隣のスーパーや盆踊りには参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回往診を設け緊急時なども指示を受けられる体制作りをしている。入所時に往診または通院を選択でき、通院の方でも往診に変更も可能です。ご家族様の状況に合った支援をしております。	受診は本人や家族の希望を基本としている。提携医による受診は月2回あり、緊急時の対応も行っている。受診に関わる情報や薬の取り扱いについては職員間で共有し、適切なケアが受けられるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時に日常生活の中で気づきや心配事など相談するようにしている。また、必要があれば主治医と相談し、看護を受けられるように支援しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	施設サマリーで情報交換に努め、状況に応じて担当者や医療ケースワーカーと連絡しあい関係の構築に努めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今年も状況に合わせてターミナルケアに取り組む方針です。地域の医療と看護師さんと御家族様と職員と連携を図りながら支援に取り組んでおります。	重度化や終末期に向けた方針については入所時に家族に説明をし同意を得ている。ターミナルを経験して、少しでも入居者や職員の心理的な負担を緩和するために研修会を行い、医師との連携、ケアの対応、職員のメンタルケア、入居者や家族への具体的な支援などを再確認し、チームで支援に取り組むように努力をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習を交代で受講して頂いています。また、今年からAEDを設置しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、意識を高めています。また、食料の確保もしています。今年も地域の方々と協力体制を構築できることが課題です。	年2回昼、夜間の火災を想定した訓練を行っている。消防署の立会いの下に、訓練情報を事前に知らせない、各ユニット毎の訓練を実施するなど様々な条件を想定し行い、職員の意識や機器取扱技術向上に努めている。水、食品等の備蓄品は3日分用意されている。地域との協力体制は模索中である。	運営推進会議等で、避難時の協力要請や避難場所提供など地域との協力体制について具体的な視点で話し合い、地域との協力体制を築いていくことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	引き続き、入居者様に対して尊重し、プライバシーを損ねない言葉掛けを心がけています。	職員の都合に合わせず、個性を大切に、自尊心を傷つけず出来る事ややっていける様に、プライバシーや立場を尊重したケアに心がけ、よりよく過ごせるように配慮している。フロアーを交流して行っている洗い場担当や独りだけの居場所など、一人ひとりを尊重する様な場面や場所の確保をして対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	気持ちを現すことができるように促しています。自己決定が難しい方にはできる限り寄り添うように心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	概ね可能な限りペースを大切にさせて頂いています。満足できるレベルには至っておりません。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々のニーズに合わせておしゃれができるように支援に努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々のできる力に合わせてお手伝いして頂いております。下膳も可能な方にはお願いしています。	敷地内の畑で採れた野菜を食材にしたり、近くのスーパーに食材を買いに出かけたり食べる楽しみが持てるように配慮している。入居者は保有能力に合わせて、調理や盛り付け、配膳、片付け洗い物等出来る事を職員と一緒にしている。職員も一緒に食卓を囲み会話をしながら支援に努めている。季節に応じたメニューやおやつも楽しみの一つとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェックをつけ、1日の水分の確保に努めています。また、個々に合わせた量に調整を図っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に必ず口腔ケアを実施しております。他には毎食前に嚙下体操の実施や訪問歯科の往診にて清潔保持に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の状況に合った排泄でおむつを使わないように支援しています。入所してから状況に応じて綿パンツに移行している人がほとんどです。	おむつを使わない、座位での排泄支援を目指し、排泄チェック表を参考に一人ひとりに寄り添い、適切な声かけなどに心がけて支援をしている。現在おむつ使用者はおらず、状態の維持に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別に必要なに応じて牛乳や朝食時に乳製品を献立にいられています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日行っております。その日の流れによって午前や午後に入浴を支援しています。また、汚れたときはその都度対応させていただきます。	入居者は週に3回、午後の時間帯で入浴し、時間や湯温、入浴介助は一人ひとりに合わせて対応している。また、ゆず湯、菖蒲湯等を楽しんでいる。入浴を拒む場合は、声かけなどを工夫して気持ちを和ませ入浴を促している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	概ねできております。個々の状況に応じて休息をしたり、夜間就寝できるように日中はフロアで過ごすように支援しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	概ねできている。何か変化があれば同系列の薬剤師さんに助言を頂いております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外食・買い物等に同行して頂き、できる限り喜びのある支援に努めています。今は外食を特に皆様楽しみにされています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	満足にはいかないが、散歩の声掛けや、喫茶店や外食に支援しております。	天候や季節を考慮し、独り散歩や職員と周辺の散歩をしている。敷地内の畑の様子を眺めたり、作物の収穫をしている。草取りの後、ガーデンテラスでおやつを楽しむ機会もある。モーニングやランチ等の外食、食材の買い物も欠かせない外出となっている。季節の花見や遠出の外出支援も実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望される方は所持して頂いております。買い物時に必要に応じて支援できるようにアプローチしております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人様の希望があれば、御家族様に了解の上支援しています。また、年賀状を毎年入居者様と作成して、御家族様に郵送しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに壁面飾りを考案しております。その時期にあった温度調節に心掛けて配慮しています。	採光や風通しの良い食堂兼居間がワンフロアの共有スペースで、入居者の動きや気配がよく見渡せる。居間や玄関のソファにゆっくり腰掛け、テレビを見たり気分転換をはかったりしてのんびり過ごしている。明るい居間には、季節に応じた手作りの作品や行事の写真が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事テーブル・椅子とは別にソファを配置し、好きな場所でくつろぐ空間を設けています。その人にあった場所で工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの調度品を使って、御本人様やご家族様と相談しながら居室の空間も提供しております。	自宅で使用していた物を持ち込んで安心できるスペースを確保している。ベットは入居者の状態に合わせて対応している。また、家族が希望する小物や写真を飾って居心地良く過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の扉に名前を貼ったり、写真を貼ったりしています。また、トイレや非常口もわかるように手作りで表記しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2394700039		
法人名	株式会社 イズミ		
事業所名	グループホーム いわくらの泉 2階		
所在地	愛知県岩倉市八剣町井ノ下20番地		
自己評価作成日	平成27年8月15日	評価結果市町村受理日	平成27年10月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kazokensaku.jp/23/index.php?action=kouhvu_detail_2015_022_kani=true&JizvosvoCd=2394700039-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階		
訪問調査日	平成27年9月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

いわくらの泉は今年で5年目の施設になります。「絆」をテーマに笑顔と心を大切に、毎月恒例のモーニング・喫茶レク、夕食レク、1泊の温泉旅行に力をいれています。地域との交流の場となるよう目指しており、入居者様を始め、御家族様、地域の皆様へ愛されるよう日々努力しております。施設に自販機の設置することにより、地域の皆様との交流の場となるよう交流スペースや防犯対策も兼ねております。また、毎週ゴミ拾いに近隣の美化活動にも取り組んでいます。1日の流れは残存機能を活かしながらできることをよりながくを心掛け、体操、嚙下体操、散歩、踏台、掃除、買物、レクリエーションなど入居者様と楽しんでおります。病気になるっても、社会との交流する機会を設け、その人が地域において生活できるように日々励んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周りの民家や田畑と溶け込んで佇むモダンな外観の事業所は、入居者や職員の動きがある中、節目の5年目を迎えた。入居者との繋がりを大切に、地域に溶け込み地域に愛される事業所を目指して、職員とのコミュニケーションを重ねながら更なる努力をしている。「いわくらの泉」の理念を基に8項目の行動指針を管理者と職員で作り上げ、日々のミーティングの中で唱和をしながら共通理解を深め、ケアの振り返りに繋げている。日々のケアを通しての事例検討会や看取りなどの勉強会を行い、職員の意識や力量の向上に努めている。また、包丁を使つての調理やフロア交流出張洗い場担当、独りだけの居場所の確保など職員の都合に合わせて、入居者の個性や立場、自尊心を大切にしつつ、出来る事を永くやっていける様なケアに心がけている。入居者は、広い菜園で季節の野菜を育て収穫をして食材にし、食事を楽しんでいる。また、季節感や心地よい風を感じながら、ガーデンテラスでパーベキューをしたりおやつを頂いたり開放的な生活を楽しんでいる。広々としたリビングでは職員と会話をしたり、ソファーにもたれのんびりテレビを楽しみながら穏やかに過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 グループホーム いわくらの泉 1階	玄関・及び各フロアーに提示をしました。 日々の申し送り時に理念の読み合わせを行い、職員間で共有しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	週1回 施設近隣のゴミ拾い活動を入居者様と行っています。買い物や近隣の人との挨拶などし、喫茶店や地域の行事に参加し、いきいき介護サポーターの受入もあります。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場において発信しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	職員ミーティング時に報告させて頂き、改善点や御家族様等の意見を報告し、話し合いの上今後のサービスとして活かさせて頂いています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所や包括支援センター及び近隣の施設との会議を定期的に図り、日頃から連携に勤めています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年も夜間のみ防犯対策として玄関は施錠させて頂いています。玄関の施錠以外に窓のストッパーを外すことを今年から実施致しました。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	今回は虐待に関する勉強会を行いました。日頃の問題点や改善点を見出し、今後の施設のあり方を話し合いました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度について一部の職員は把握しているものの、今後の勉強会として周知したいと考えております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居する前に必ず面接を行い、説明した上で契約をしております。また、随時承り、御理解と納得に努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時に意見をできる限り反映させて頂いております。その後、ご家族様には議事録として郵送もしています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングを開き職員の意見を聞き、改善点があればその都度対応しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別面談を心がけ、意見を聞き整備に努めさせて頂いております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会を2ヶ月に1回のペースで取り組むように努力しております。また、社内の研修にも職員を同伴して頂いております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は同業者との交流を図りサービスの質の向上を図っております。職員同士ではまだまだ取り組みが必要。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	できる限り本人の要望や希望を聴き、ケアに反映できるように関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居する前に面接を行っております。何かあればその都度ご相談のり、対応させて頂いております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所後の様子を観察し、情報の共有を図りその時に必要なケアをするように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることや本人の居場所・役割を見出し、極力出来ることは行えるように暮らしの関係を構築に努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の関係を大事にし、極力ご家族様との交流する機会をお願いしております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会・使い慣れた調度品などを持ち込んで頂いている。行きなれた外出先やボランティアさんとの関係も継続して交流している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関係できるように役割分担を図ったり、交流するレクなど支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後は必要に応じて交流するようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的カンファレンスを行い、個々のニーズに応えられるように話し合いをしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴を御本人様や御家族様等からお聞きし、可能な限り把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のニーズに合わせて、できることを可能な限り行い、日々の暮らしの中での変化や状態に合わせて提供しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを定期的開催し、ご家族様や現状の状態に合わせたケアプランを作成に努めています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や申し送りなど活用して情報の共有に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できる限り対応ができるように対応し、ご家族様と相談しながら柔軟に対応できるように努力致します。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	全体的に満足できておらず、近隣のスーパーや盆踊りには参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回往診を設け緊急時なども指示を受けられる体制作りをしている。入所時に往診または通院を選択でき、通院の方でも往診に変更も可能です。ご家族様の状況に合った支援をしております。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時に日常生活の中で気づきや心配事など相談するようにしている。また、必要があれば主治医と相談し、看護を受けられるように支援しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	施設サマリーで情報交換に努め、状況に応じて担当者や医療ケースワーカーと連絡しあい関係の構築に努めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今年も状況に合わせてターミナルケアに取り組む方針です。地域の医療と看護師さんと御家族様と職員と連携を図りながら支援に取り組んでおります。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習を交代で受講して頂いています。また、今年からAEDを設置しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、意識を高めています。また、食料の確保もしています。今年も地域の方々と協力体制を構築できることが課題です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	引き続き、入居者様に対して尊重し、プライバシーを損ねない言葉掛けを心がけています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	気持ちを現すことができるように促しています。自己決定が難しい方にはできる限り寄り添うように心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	概ね可能な限りペースを大切にさせて頂いています。満足できるレベルには至っておりません。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々のニーズに合わせておしゃれができるように支援に努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々のできる力に合わせてお手伝いして頂いております。下膳も可能な方にはお願いしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェックをつけ、1日の水分の確保に努めています。また、個々に合わせた量に調整を図っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に必ず口腔ケアを実施しております。他には毎食前に嚥下体操の実施や訪問歯科の往診にて清潔保持に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の状況に合った排泄でおむつを使わないように支援しています。入所してから状況に応じて綿パンツに移行している人がほとんどです。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別に必要なに応じて牛乳や朝食時に乳製品を献立にいれています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日行っております。その日の流れによって午前や午後に入浴を支援しています。また、汚れたときはその都度対応させていただきます。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	概ねできております。個々の状況に応じて休息をしたり、夜間就寝できるように日中はフロアで過ごすように支援しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	概ねできている。何か変化があれば同系列の薬剤師さんに助言を頂いております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外食・買い物等に同行して頂き、できる限り喜びのある支援に努めています。今は外食を特に皆様楽しみにされています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	満足にはいかないが、散歩の声掛けや、喫茶店や外食に支援しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望される方は所持して頂いております。買い物時に必要に応じて支援できるようにアプローチしております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人様の希望があれば、御家族様に了解の上支援しています。また、年賀状を毎年入居者様と作成して、御家族様に郵送しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに壁面飾りを考案しております。その時期にあった温度調節に心掛けて配慮しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事テーブル・椅子とは別にソファを配置し、好きな場所でくつろぐ空間を設けています。その人にあった場所で工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの調度品を使って、御本人様やご家族様と相談しながら居室の空間も提供しております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の扉に名前を貼ったり、写真を貼ったりしています。また、トイレや非常口もわかるように手作りで表記しています。		